

私が心配されましたが、爽やかな初夏の気候に恵まれ、生徒にとって思い出深い一日となりました。

私は緑野中学校へ着任した3年前、『緑野力 POWER OF MIDORINO』と書かれた桃太郎旗が昇降口に幾つも掲げられているのを見て、緑野力とはどんな力のことなのだろうか？ 学力のこと？ 部活動が盛んなこと？ 色々と考えたことがあります。2年振りとなる全校生徒による今年の体育祭で、着任した年の体育祭で躍動する生徒の姿から「緑野力」



緑野中学校校長 齊藤 久

「復活！緑野力」

令和3年6月3日(木)、緊急事態宣言の再延長により延期されていた第12回体育祭が校庭で開催されました。天気予報は雨のため当日の開催が心配されましたが、爽やかな初夏の気候に恵まれ、生徒にとって思い出深い一日となりました。



同窓会新聞

第33号

令和4年4月
発行

中野区立
第十一中学校
同窓会幹事会



について生徒から教えてもらったあの記憶が蘇りました。

それは3年生の団体種目「大ムカデ」で起きました。クラス対抗のレースは女子のムカデからスタートしましたが、第1コーナーのカーブに入ったところで青団のムカデが大きく転倒し、転倒した勢いで生徒の足を結んでいた綱が複雑にからんでしまい、綱を走れる状態に修復した時には、他のクラスは男子チームのムカデへと櫓が渡り、男子のムカデが発射し始めていた頃で

した。その時に生徒達は想定外の行動を起こしました。諦めてかけていた青団女子のムカデに走り終えた他のクラスの女子達が自分たちの綱をほどくと青団女子と併走し応援を始めました。校庭を3年生の女子生徒の集団が大きな声で、声援をあげながら移動して行く姿に1・2年生の後輩たちも全員が立ち上がり、青団女子のムカデを応援し始めました。女子から櫓を受け取った青団男子は、3年生全員と後輩たちの応援を受け、力の限り最後まで走りきりました。3年生全員が一つの集団となり、校庭を移動していく光景は、その場にいた多くの人の涙と感動を誘いました。そして、競技を終えた3年生へ大きな拍手が送られました。その瞬間、緑野力とは、「最後まであきらめずに全力で挑む力、うまくいかずに困っている人には、そばへ行って励ましてあげる行動力、思いやりの心で支えてあげる優しい気持ち」であることが分かりました。

コロナ禍で開催された体育祭終了後の体育祭実行委員会アンケートで「本気で全力で体育祭に臨みましたか？」の回答(5段階評価)は、「5」が77%、「4」が19%、肯定的な評価の合計は96%でした。生徒は見事に『緑野力 POWER OF MIDORINO』を復活させてくれました。



同窓会会長(19期生) 大内 慎吾

十一中と六中が統合し、緑野中が開校されて十四年が経ちました。

私が入学した時代(昭和四八年)は、まだ木造二階建ての校舎で、花壇がある中庭もありました。正門右、現在テニスコートになっている場所に体育館があり、一階の角には決して衛生的とはいえない男子トイレがありました。十一中のグラウンドは区内の中学校では唯一直線で100mが取れ、区内で一番の広さがあり自慢でした。今は無くなりましたが、私の時代は体育祭で男子は棒倒し、女子は騎馬戦がありました。クラス対抗の応援合戦は、現在もあると思いますが、盛り上がりました。懐かしく思い出します。

グラウンドの桜、今年も満開でした。お地蔵さん、健在です。遊びに来て下さい。



賛助会員募集のお知らせ

中野区立第十一中同窓会では、十一中の閉校により入会金が無くなり、終身会費だけでは運営が出来なくなってきています。

そこで、現在では任意の賛助会員を募集して(年会費 2,000円)同窓会の財政を維持しています。

今年度ご協力いただける方は、返信用葉書の賛助会員申し込みの欄に○印を付け、会費2,000円を同封の郵便振替用紙(郵便局専用です)にてお振込み下さい。宜しくお願い申し上げます。

賛助会員の方には、年度毎に總會のお知らせ、広報紙を送付させていただきます。



「2022(令和4)年度 同窓会総会」中止について

今年度予定していましたが定期総会は、コロナウイルス感染防止のため中止とします。また総会後の合唱、懇親会も中止とします。会計報告につきましては同窓会ホームページをご覧ください。

同窓会ホームページアドレス
<http://n11jhs.net/>

事務局から

昨年は活動が何も出来ない一年でした。五月頃、今年は手套が届かない、賛助会費払いたいけどどうすれば良いの？の問い合わせがありました。有難いことです。今年はなんとでも出さねばとの思いでした。相変わらず卒業式入学式は参列自粛の依頼があり、同期会も中止、記事の不足も有りましたが何とか発行出来ました。同窓生の情報、編集協力出来る方、感想など連絡をお待ちしています。

事務局 東京都中野区鷺宮 一ノ七ノ四 笠原方
FAX 03-3310-6122
メール kasabn.a@silc.plala.or.jp

同窓生訪問

10期生 岸 伸典氏
(きし しんすけ)



●中学校時代の思い出を語ってください。
中学では、部活に励んでいました。陸上部と水泳部と合唱部です。

●ぜひぶんたくさんの部に所属していたので

はい。本職は陸上部でして、種目は中距離(1500m)でした。水泳部は、夏の間のみ水泳部の人たちと一緒に練習していました。合唱部は、合唱コンクールに向けた練習に参加しました。

●それは、まず陸上部での思い出を。

一番の思い出は、中学1年生の時に国立競技場で走ったことです。前年に、東京オリンピックが開催されました。1000m金メダリストのボブ・ヘイズ選手やエチオピア出身のマラソン金メダリストのアベベ

ビキラ選手が走ったあのアンツーカーの競技場で走ることができたことです。私は、1500mに出場しました。結果は、3位で銅メダルでした。私にとつての最大の思い出の品で、メダルと賞状を額に入れて机の前に飾っています。最終コーナーでトップに立つも、ゴール前で後ろを振り返ったりして集中力を欠き二人の選手に抜かれてしまいました。「最後まで気を抜くな！」とOB指導者の方に厳しく叱られました。

●駅伝で都大会に出場されましたね。
はい。中野区大会で優勝し、中野区代表として都大会に出場したことも思い出に残っています。結果は12位でした。各区や市の代表が集まる中での12位です。まずまずの成績と思っています。赤坂迎賓館の周りの約2kmのコースを走り、迎賓館の正門でタスキ渡しをしました。



前列左から2番目が岸氏(卒業アルバムより)

際に、迎賓館の方
がその内部を部活
顧問の小野先生と
もども案内してい
ただいたことも貴
重な思い出です
た。正月の箱根駅
伝は、中学時代の
思い出と重ねなが
らいつも熱い想いで
応援しています。

●最近、2020新国立競技場に行かれたそうですね。
周辺に用事があり、競技場の周りを散策しました。「あれから50年以上か」と感慨にふけりました。ついでに神宮球場の周りも歩きましたが、懐かしかったです。まさに「光陰矢の如し」です。

●水泳部はどうでしたか？

夏場限定の水泳部員でした。自由形200mリレーに出場しました。リレーメンバーは4人必要でしたが、3名(自由形の塚田君、白井君、バタフライの村山君)は揃っていたのですが、あと1名足りなかったのが私が駆り出されました。3人の強力メンバーのおかげで中学2年と3年の時に中野区大会で優勝しました。顧問の井手上先生の下で水泳部の人たちと同じメニューでの練習はきつかったことを記憶しています。

この年以降、水泳部は中野区大会で11年連続総合優勝を遂げたそうです。白井君と酒席を共にしたときに水泳部時代の話が出ました。「あの時お前がいなかったらリレーメンバーが組めなかったから優勝もなかった。岸には感謝している。」と言われ、水泳部に貢献できたことをうれしく思いました。

●合唱部はこれまでの2つの部活と毛色が違いますが。
はい。音楽の菅原先生の指導の下で課題曲と自由曲を練習しました。私は、声が大

在が大きいです。
●昨年、本を出版されたそうですね。
はい。『ハイリゲンシユタツの遺書の真実』(幻冬舎)という本を昨年11月に出版しました。難聴という不治の病ゆえに自殺まで考えて、31歳の時に書いた「ハイリゲンシユタツの遺書」を分析し、その後ペーターヴェンの音楽の変化、先進性や革新性について記しました。中学の時に同じクラスの井上君(現在指揮者にペーターヴェンの「運命」を紹介され、それからペーターヴェンのファンになりました。ぜひ手に取っていただければと思います。ペーターヴェンの隠れたエピソードなども紹介しています。詳細はネットをご覧ください。

●緑野中の後輩に一言を。
友達を作ってほしいです。今でも中学校時代の友達とは定期的に会っています。若いころの友達は、その時しか作れないので貴重です。今の私の心の支えになっています。将来のために、どうぞ友達を作ってください。

●最近の生活はいかがですか。
生活3本柱というのがありまして、①「友」②「読書」③「旅」です。「友」には、酒とゴルフが含まれます。この3本柱を軸に毎日を過ごしています。コロナ禍で旅行ができないのが残念です。やはり「友」の存

きいとのことで合唱部の一員と呼ばれました。当時は、宇佐美君がリーダーとして部員を取りまとめていました。自由曲の「海の賛歌」は、今でも記憶に残っています。菅原先生の熱心なご指導により、東京都で準優勝しました。優勝は、杉並区のM中学でした。M中学は、全国大会に出場し、準優勝を果たしました。後日談があります。菅原先生は、「M中学よりも十一中の方が断然うまい」とのこと。審査員にクレーム(一部には、殴り込みをかけたとの噂あり。真偽は不詳)をつけたそうです。先生は、それほどまでに熱意あふれる指導者でした。また、プロのオペラ歌手を招いて十一中の体育館でミニコンサートが行われました。度肝を抜く声量のすばらしい歌声を聴き、びっくりしたことを思い出します。中学生でプロ歌手の生の歌声が聴けたことは、今思えばよい経験だったと思います。

●楽しく充実した中学生生活のようでしたが、挫折も経験されたとか。
そうなんです。今思い出しても切なくなりますが、高校入試に落ちたことです。当時は学校群制が敷かれていました。私は32群(西高・富士高)を受験しました。当時十一中から14~15人が受験しましたが、落ちたのはなんと私だけでした。合格発表の日には合格者は入学案内の資料を手に入れましたが、私だけが手ぶらでした。帰りの

バスの中で、やるせなくみじめな気持ちで手ぶらの手をポケットに突っ込んでいたことを今でも記憶しています。中学に戻った時に先生方に、私だけ「落ちました」という報告をしました。今思えば貴重な経験でしたが、当時の私としては、大変な挫折感を味わいました。また、受験の前日まで友人とサッカーをしていて、先生に「お前早く帰れ！明日受験だぞ！」と叱られたことも今では懐かしい思い出です。

●高校・大学生活はいかがでしたか。
高校では、サッカー部でした。海城高校はそれほど強くなかったので、サッカーを楽しむことに専念していました。大学では、尊敬する先生(蓮井淳教授)の下で大いに勉強しました。学問だけではなく、先生の後姿を見て人間の生き方のようなものを学べたことは、私の人生にとつてとても意義深かったです。また、研究室においては、素晴らしい友人と巡り合えました。コロナ禍で現在は中止していますが、毎年11月に研究室のOB会を行っています。毎年多くのOBが参加しています。

●最近の生活はいかがですか。
生活3本柱というのがありまして、①「友」②「読書」③「旅」です。「友」には、酒とゴルフが含まれます。この3本柱を軸に毎日を過ごしています。コロナ禍で旅行ができないのが残念です。やはり「友」の存

略歴
昭和43年中野区立第十一中学校卒業。海城高校卒。慶應義塾大学大学院機械工学専攻修了。昭和53年住友金属工業(株)入社。2年間、ラサロカルテナスでメキシコ大管工場(PMT)の建設・操業指導を担当。平成24年住友金属工業(株)定年退職。